



～地域とともにある学校をめざして～

鯨コミ

R7 年度 CS通信No.6 R7.9.1



(コミュニティ・スクール通信) 文責 社会教育推進 DC 藤田昭彦

環境を守ることにについて学び発表(7/10)



鯨ヶ沢中学校第1学年では、ふるさと学習の一環として、海岸のゴミ拾いを通じて、環境を守ることを学び、発表しました。

海にはたくさんのゴミがあり、特にプラスチックごみがたくさんあって、魚の食べたマイクロプラスチックごみが人間の体の中に入ると危険であること、ごみを分別して捨てることが大事であること、環境についてもっと知り、自分たちでできることを見つけ、自然を守ることが大事だという発表がありました。

発表後、阿彦教育長から、

「海のゴミは多いが、海だけのゴミではなく、山の木も流れ着いている。町のゴミや道路に落ちているゴミも海に流れていることがわかる。自分たちでできることは何かを考えて、ポイ捨てをしない、ゴミを分別する、なるべくゴミを出さない、残食を少なくすることなどを考えてほしい。」と、というアドバイスがありました。

伝統を守った「カシ禰宜」の上演(8/16)



「白八幡宮大祭」では、神輿渡御行列や人形山車

とともに、小学生による伝統の神楽「カシ禰宜」が上演されました。

今回は、新町町内会の協力で、西海小学校で体験学習会を重ねた結果、3年生5人、4年生と1年生それぞれ1名の計7名が参加することになり、伝統の灯が守られました。

8月16日(土)午後2時からの最終公演には、西海小学校全校児童が応援に駆け付け、会場は大いに盛り上がりました。

短い期間での練習となったそうですが、太夫と禰宜のユーモラスな掛け合いと舞が見事に決まり、素晴らしい舞台となりました。

長年、舞台を見てきた地域の方にお話を聞くと、「8年ぶりのカシ禰宜で、楽しみにしていた。こどもたちのがんばりは、素晴らしかった。」

と、涙を流して話していました。

地域の方が特技を生かして指導するクラブ活動(8/28 舞戸小学校理科実験クラブ)



理科実験クラブでは、西海自然塾の菊谷氏を講師に、液体窒素で物を凍らせる実験をしました。

はじめに、講師の菊谷氏から、この日使う液体窒素が、 -178°C の低温で危険なので、ルールを守るよう、指導がありました。

また、直接手に触れると、凍傷になる恐れがあるので、皮手袋をつけて実験をしました。

実際に物を凍らせてみると、数秒で凍るので、こどもたちは驚きの声を上げていました。

こどもたちは、この日、安全に楽しく実験することを学ぶことができました。